

令和6年度 結果の分析及び今後の改善策

(中間・最終)

仁方中学校区 校番1 仁方中学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(今年度) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))															
***	④ ○主体的に学 び、思考力・表 現力を育てる。	④ 考える授業づくり	○学習生活状況アンケート(生徒実施)の「授業で学んだことを、自分の生活に結びつけて考えようとして	○継続的に生活に結びついた題材や話を授業の中に取り入れていく。 ○引き続き、単元開発・教材開発をしていく。															
		④ 基礎学力の定着と向上	○全国学力・学習状況調査の結果と全国平均との差は国語-4%、数学-3%となり年々平均値に近づいていた。2学期末に行った実力試験では、全国平均との差は国語+1.2%、数学+2.3%であった。週課題の実施で家庭学習が少しずつ定着してきた成果と考えられる。 ○学習生活状況アンケート(生徒実施)の「少なくとも月1冊は本を読んでいます。」の項目では肯定的評価84.0%であった。保護者アンケート(保護者実施)の「お子さんが一カ月に1冊は本を読んでいますか。」の項目では肯定的評価が49.6%であった。保護者との大きな差があるが、一日のうち朝読書の時間に本を読んでいるからだと考えられる。	○補充学習を充実していく。家庭学習の課題の量、範囲の設定を的確にしてい く。 ○課題の提出を徹底させる。 ○文化委員や図書部と一緒に読書がしたくなる取組を行っていく。															
**	○自らを律し、 他人を思いやる 豊かな心を育む。	自校肯定感・集 団適応感の向上	○各項目において、目標値を達成することができた。特に①・②の項目が9月より肯定的評価が増加していることは、合唱コンクールやクラスマッチの行事を通じて、縦割り集団活動が充実したことが大きく関係していると考えられる。 ○③・④の項目に関しては、9月より肯定的評価が減少しているので、各クラスでの生徒会活動や学校行事に対するフィードバックをより丁寧に行っていくことや、学級のルール作りの徹底を行う必要がある。 ○③の項目における「他人から好かれている方だと思う」の質問に対する肯定的評価が他の質問に比べて低くなっている。「自分の良さ」や「他人の良さ」を認め合う機会を多く作っていく必要がある。	○生徒への肯定的なフィードバックを行えるように教員間で生徒の情報をしっかりと共有する。 ○学級や班、部活動等で認め合いができるような取組を行う。															
		④ 規範意識の向上と豊かな心の育成	○各項目において、目標値を達成することができた。無言清掃や授業前の黙想など、N中メソッドとして学校でこだわって指導をしている成果が出ている。 ○ボランティア活動にも積極的に参加し、多くの生徒が1年間に1回以上ボランティアに参加している。地域や小学校とのつながりがあることで、中学生のボランティアへの意識も向上しているものと考えられる。	○返事やあいさつなどの声を出す場面の肯定的評価が他の質問に比べて低くなっているため、生徒会の取り組みなどを充実させていく。 ○教職員間でもあいさつや返事への価値や意味を共有し、全教職員が同じ指導を行えるようにする。 ○全校集会等の全校が集まる場合には、やり直しさせるなどの指導を徹底していく。															
*	○たくましい体を育成する。	生徒が主体的に 取り組む体力の 向上	○ハンドボール投げでは、3学年男子が県平均を上回った。女子は全学年全国平均を下回っている。日頃、投動作が少ないため、平均を下回る結果になったと考えられる。 ○持久走では全学年男子と1年女子が全国平均を上回った。2年女子については、昨年度よりは全国平均との差を縮めている。継続して取り組んだ成果が得られた。 ○「呉チャレンジマッチスタジアム」の「シャトルスローリレー」をクラスマッチで取り上げたが、入賞はできなかった。継続的にいき、ハンドボール投げへのステップアップに繋げていきたい。チャレンジ種目である「みんなでジャンプ」は全学年上位に入賞することができた。	○次年度の体力テストにおいて、重点項目の県平均を上回ることができるように、保健体育での授業、部活動で、補強トレーニングや基礎的な体力の向上に取り組んでいきたい。 ○呉チャレンジマッチについて保健体育科や体力づくりの年間指導計画をふまえた上で、クラスマッチや保健体育の授業の中で計画的に取り組むことで、上位を目指す。															
		心身の健やかな 発育	○学校楽しいーとの「学級は、目標やルールが大切にされているので、安心して居心地よく過ごせる」の肯定的評価は95.8%と目標値の90%を上回った。生徒の心に寄り添いながら、きめ細やかに指導・支援を行った成果と考えられる。 ○保護者アンケート「学校は生徒や保護者の相談や悩みについて、適切に応じていると思いますか」の肯定的評価は97.4%と目標値の90%を上回った。計画的に教育相談を行っている成果と考えられる。	○教育相談等で確認した情報を共有するとともに、心配されるケースについてはSCによるカウンセリングにつなぐなど生徒の心に寄り添った教育相談体制を継続する。															
業務改善	○教職員が自らの 意欲と能力を 発揮できる教育 環境の整備する。	組織的な業務改善の推進	○教職員アンケート「日々の業務の中で充実感を得られている」の肯定的評価は上半期と同様100%である。「スクラップアンドビルド」の肯定的評価は66.7%から81.3%へ上昇した。簡素化した業務があったためと考えている。 ○時間外勤務は減っているが特定の教職員の時間外勤務の偏りがある。また、「生徒と向き合う時間の確保ができていく」という教職員は86.7%である。 <table><tr><th colspan="5">時間外勤務45時間未満の教職員の割合</th></tr><tr><th>9月</th><th>10月</th><th>11月</th><th>12月</th><th>1月</th></tr><tr><td>38%</td><td>50%</td><td>50%</td><td>75%</td><td>81%</td></tr></table>	時間外勤務45時間未満の教職員の割合					9月	10月	11月	12月	1月	38%	50%	50%	75%	81%	○次年度に向けて3学期から管理職、教務主任及び生徒指導主事によるプロジェクト会議を週に1回開き、組織的な業務改善の推進をすすめ、教職員のモチベーションを向上させている。 ○生徒の学力向上及び働き方改革の視点で教職員からアイデアを募っており、今後もボトムアップを目指す。
時間外勤務45時間未満の教職員の割合																			
9月	10月	11月	12月	1月															
38%	50%	50%	75%	81%															